保護者・地域の皆様へ

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします

調査実施基準日：令和８年４月23日（木）

伊豆市教育委員会

この調査は、子供たちの学力を把握するための「教科に関する調査（令和８年度は国語、算数・数学、英語）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」で構成されています。この調査結果をふまえ、学校と家庭、地域が連携しながら、子供たちの学力向上や豊かな心の育成、規則正しい生活習慣の定着を目指していくことが望まれます。

なお、本資料において、小学生と義務教育学校前期課程を「小学生・(小)」、中学生と義務教育学校後期課程を「中学生・(中)」と表記します。

１．教科に関する調査結果

平均正答率	小学校・義務教育学校６年生		中学３年生・義務教育学校９年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
令和６年度	△	△	◎	○	
令和７年度	○	○	◎	◎	
令和８年度	**○**	**○**	**◎**	**○**	**△**

◎…全国より高い
○…全国と同程度
△…全国より低い

（１）国　語

【小】◎文章の特徴を捉える問題や文章の構成上の工夫を説明する問題の正答率が全国を上回り、「読むこと」における読解力が身に付いています。
△理由や事例を挙げて話の構成を考えるなど、「書くこと」および「話の構成力」に課題がみられました。

【中】◎「情報の扱い方」と「書くこと」に強みがあります。表現や要約の理解があり、段落相互の関係を明確にして展開を工夫する問題も正答率が全国より高い水準となりました。

右の問題は、小学校国語の問題です。資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題ですが、下記のような課題がみられました。

正答は「２」と「５」の２つですが、「２」と「５」のどちらかを回答したものの、両方を回答できていない割合が高い結果でした。

原因として、次の２つを捉えられなかったことが分かります。

① 岡野さんたちが、資料を用いる際に、茎笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしていることを捉えること
② 手元や口元を大きく映して映像で示すことで、茎笛の遊び方が伝わるようにしていることを捉えること



二　岡野さんたちのグループは、【構成メモ】をもとに、「中①」を次の【動画の一部】のようにさつえいしました。これをよく読んで、あとの(1)から(3)の問いに答えましょう。

【動画の一部】

〈映像〉	〈音声〉
	岡野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」
	岡野　「みなさん、この音を聞いてください。」 『ピー♪（くき笛の音）』 岡野　「これは何の音だと思いますか。」 水谷　「これはたんぽぽで作ったくき笛の音です。」
	岡野　「どうしたらこんな音が出るんですか。」
	水谷　「くき笛は、たんぽぽの花の部分を取りのぞいて」
	水谷　「片方のくきの先をつぶして作ります。」
	水谷　「つぶした方をくちびるでくわえ、風船をふくらませるように息をふきこむと」 『ピー♪（くき笛の音）』 水谷　「このように音を出すことができます。」
	水谷　「くきの長さが変わると、音の高さも変わります。いっしょにふいてみましょう。」 『ピー♪（くき笛の音）』『ポー♪（くき笛の音）』
	岡野　「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

(1)　岡野さんたちのグループは、【動画の一部】をくふうしてさつえいしました。そのくふうとして適切なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

1　草花で遊べる場所への行き方を映像で示すことで、草花遊びへの関心を高めている。
2　くき笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしている。
3　くき笛を作る映像に文字の説明を加えて示すことで、遊び方の手順が伝わるようにしている。
4　くきの長さを映像で比べて示すことで、くき笛にしやすいたんぽぽを見分けやすくしている。
5　手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

（２）算数・数学

【小】◎異分母の分数の大小を判断して理由を記述する問題の正答率が全国を上回りました。「数と計算」および「測定」において記述式の問題でも高い思考や表現力を示しました。
△「変化と関係」における割合の捉え方や、「データの活用」における根拠の整理には課題がみられました。

【中】○全体的には全国平均と同等ですが、領域によって差が生じています。反比例の表から対応する値を求める問題では全国と比べて正答率が高く「関数」および「データの活用」では深い理解がみられる一方で、「図形」領域における証明に課題がみられ、図形の性質を推論する過程に課題がみられました。

（３）英　語

【中】△聞き取りや読み取りの一部で理解が定着している一方で、英語のまとまりを捉える場面や記述力に課題がみられました。特に、文脈全体を俯瞰して理解する問題や、自分の考えや事実をまとまった英文で記述する力に課題がみられました。

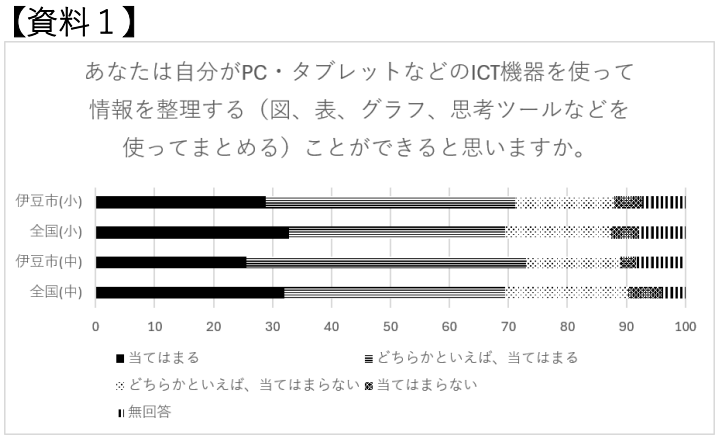
２．質問紙から見えてくる伊豆市の子供たち

（１）「調べる」から「伝える」へ！端末を表現のツールにしよう



資料１をご覧ください。伊豆市の子供たちは端末を使って情報を整理することが全国平均を上回っています。情報を整理するとは、図や表、グラフや思考ツールなどを活用して内容を分かりやすくまとめることです。教科を問わずに、どの学習でも情報を整理する段階で端末が効果的に活用されていることが分かります。

【資料１】

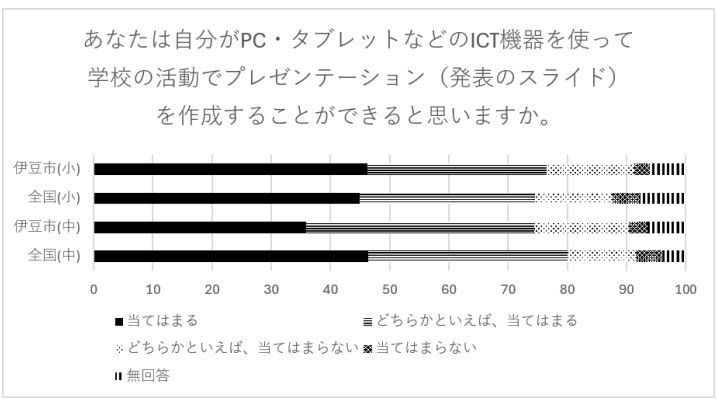


資料２は、端末を使用してプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができるかを問う質問です。小学生は全国平均を上回っていますが中学校は下回っています。本質問はプレゼンテーションの作成に限定されていますが、学習において表現の場面で端末が選択肢の一つになるようにしていきたいですね。小学校の国語の問題でも相手に伝えたいことを動画でまとめていました。情報の発信や編集等、思いを伝えるためにデジタルの強みを生かしていきましょう。





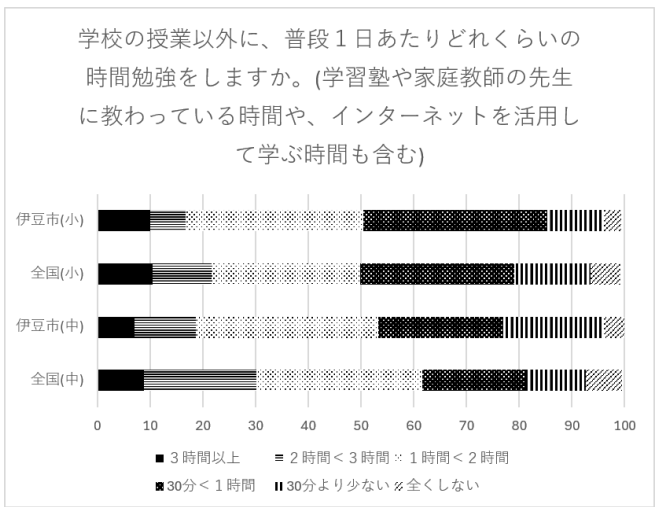
【資料２】



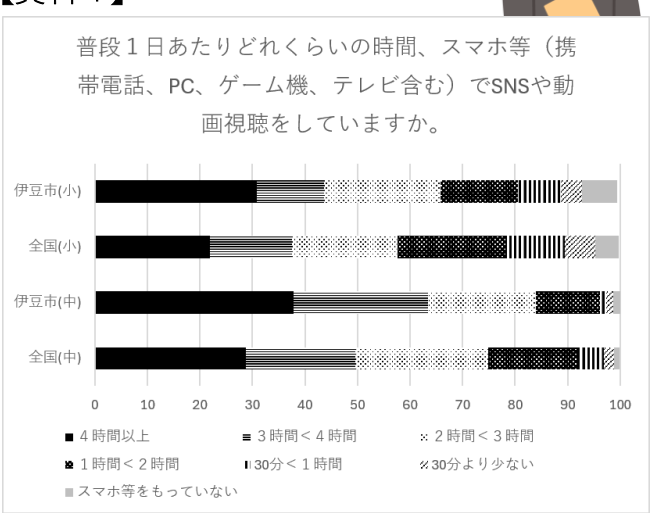
（２）家庭での時間を有効的に！



【資料３】



【資料４】



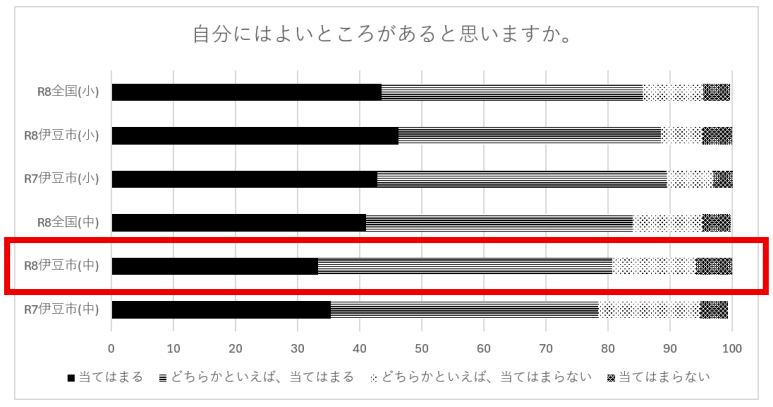
資料３をみると、１日あたり学校の授業以外にどれくらい勉強しているかの質問に対して、２時間以上と回答した子が全国平均を下回っていることが分かります。資料４からは、伊豆市の子供たちは１日あたりスマホ等でＳＮＳや動画視聴を長時間している子が全国平均と比べて多いことが分かります。これを機に、ぜひ有効な家庭での過ごし方を見直してはいかがでしょうか。

（３）将来の夢はありますか？



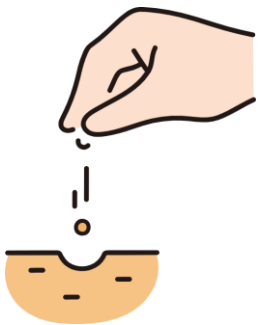
資料５は「自分にはよいところがあると思いますか」という質問項目です。小学生は、昨年度よりは若干下回ったものの、全国平均を上回っています。中学生は、全国平均を下回ったものの、昨年度より上回りました。

【資料５】



ベネッセ教育総合研究所では、子供の自己肯定感が上がる接し方として、「成功体験を味わわせる」「難易度が高いことは一緒に取り組む」「褒める・励ます」の３つを紹介しています。反対に、自己肯定感が下がりやすい接し方・声掛けとして「子供を過剰に管理する」「保護者の権威を振りかざす」と紹介しています。ぜひ、ご家庭でも参考にしてください。

資料６は、将来の夢や目標についての質問です。夢や目標を持っている中学生は、全国平均も昨年度より上回りました。将来の夢や目標をもてるという、学校のキャリア教育や地域学習の成果と考えられます。各校地域の「人・もの・こと」を活かした総合的な学習の時間が展開されています。中学校では義務教育卒業後の将来を描きながら職場体験を実施するなどしてキャリア教育を展開しています。引き続き、伊豆市の子供たちの夢が未来に花開くようにご協力をお願いします。



【資料６】

